

社会資本総合整備計画 事後評価書

令和02年08月26日

計画の名称	泉大津駅西地区における安全・安心なまちづくり（防災・安全）											
計画の期間	平成29年度～平成31年度（3年間）										重点配分対象の該当	○
交付対象	泉大津市											
計画の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・泉大津駅西地区周辺において、通学路の交通安全対策に取り組み、歩行者・自転車が安全安心で快適に移動できるまちづくりを図る。 ・駅周辺を中心に、利便性の高い市街地形成のための道路整備に取り組み、魅力あるまちづくりを図る。 ・津波浸水区域である港湾地区からの避難路および緊急車両通行路確保のための道路整備に取り組み、安全なまちづくりを図る。 											
全体事業費（百万円）	合計（A+B+C+D）	80	A	80	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合C / (A+B+C+D)	0 %

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
		H26当初		H31末
1	安全で快適に通行できると思う市民の割合を55%（平成26年度）から58%（平成31年度）に増加させる。 市民アンケート調査により、泉大津市内の道路は安全で快適に通行できると思う市民の割合を調査する。	55%	%	58%
2	良好な住環境が整っていると感じている市民の割合を71%（平成26年度）から77%（平成31年度）に増加させる。 市民アンケート調査により、良好な住環境が整っていると感じている市民の割合を調査する。	71%	%	77%
3	防災対策が充実し安心だと感じている市民の割合を58%（平成26年度）から67%（平成31年度）に増加させる。 市民アンケート調査により、防災対策が充実し安心だと感じている市民の割合を調査する。	58%	%	67%
4	港湾地区からの移動時間を14分から10分に短縮させる。 港湾地区から泉大津駅までの走行時間を、整備前と整備後に計測する。	14分	分	10分

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-
計画の成果目標（定量的指標）・泉大津市通学路交通安全プログラムに基づく要対策箇所の安全性向上を図る。第4次泉大津市総合計画												

A 基幹事業

基幹事業(大)	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市区町村名/ 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用 便益比	個別施設計画 策定状況
												H29	H30	H31	R02	R03			
一体的に実施することにより期待される効果																			
備考																			
道路事業	A01-001	街路	一般	泉大津市	直接	泉大津市	S街路	改築	(都)泉大津駅前通り線	道路改築 L=0.20km	泉大津市						44	-	
	平成31年度から都市再生整備計画事業に移行																		
	A01-002	道路	一般	泉大津市	直接	泉大津市	市町村道	交安	(市)泉大津駅臨海連絡線	歩行者通行空間測量設計 L=0.12km	泉大津市						2	-	
	A01-003	道路	一般	泉大津市	直接	泉大津市	市町村道	交安	(市)小松原通線	歩行者通行空間測量設計 L=0.20km	泉大津市						2	-	
	A01-004	道路	一般	泉大津市	直接	泉大津市	市町村道	交安	(市)松之浜大津川線	歩行者通行空間測量設計 L=0.35km	泉大津市						2	-	
	A01-005	道路	一般	泉大津市	直接	泉大津市	市町村道	交安	(市)泉大津駅臨海連絡線	歩行者通行空間整備 L=0.12km	泉大津市						3	-	
	A01-006	道路	一般	泉大津市	直接	泉大津市	市町村道	交安	(市)小松原通線	歩行者通行空間整備 L=0.20km	泉大津市						15	-	
A01-007	道路	一般	泉大津市	直接	泉大津市	市町村道	交安	(市)松之浜大津川線	歩行者通行空間整備 L=0.35km	泉大津市						12	-		

A 基幹事業

基幹事業(大)	番号	事業 種別	地域 種別	交付 対象	直接 間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市区町村名/ 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用 便益比	個別施設計画 策定状況	
												H29	H30	H31	R02	R03				
一体的に実施することにより期待される効果																				
備考																				
											小計						80			
											合計						80			

事後評価

事後評価の実施体制、実施時期	
事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
泉大津市都市政策部で評価を実施	令和2年8月
	公表の方法
	泉大津市ホームページに掲載
事業効果の発現状況	
定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	(定量的指標が、目標値を達成しない結果となった要因) 整備計画策定時に主な事業として整備効果を見込んでいた都市計画道路泉大津駅前通り線の整備が、別の事業へ移行し継続中であり、整備効果がまだ現れていない。 都市計画道路泉大津駅前通り線が別事業へ移行したことにより、整備計画の計画の期間を2年間短縮した。 指標の実績値が当初現況値より悪化しているのは、市民の行政に対する期待が高まっていると推測される。
定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況(必要に応じて記述)	
特記事項(今後の方針等)	
都市計画道路泉大津駅前通り線の整備は、平成31年度から都市再生整備計画事業へ、令和2年度から都市構造再編集集中支援事業へ移行し、継続して事業を実施しており、今後も早期完成に向け着実な事業進捗を図っていく。	

目標値の達成状況			
番号	指標（略称）		
	目標値 / 実績値	目標値と実績値に差が出た要因	
1	最終目標値	58%	整備計画策定時に主な事業として整備効果を見込んでいた都市計画道路泉大津駅前通り線の整備が、平成31年度から別の事業へ移行し継続中であり、整備効果がまだ現れていないため。
	最終実績値	43%	
2	最終目標値	77%	整備計画策定時に主な事業として整備効果を見込んでいた都市計画道路泉大津駅前通り線の整備が、平成31年度から別の事業へ移行し継続中であり、整備効果がまだ現れていないため。
	最終実績値	33%	
3	最終目標値	67%	整備計画策定時に主な事業として整備効果を見込んでいた都市計画道路泉大津駅前通り線の整備が、平成31年度から別の事業へ移行し継続中であり、整備効果がまだ現れていないため。
	最終実績値	58%	
4	最終目標値	10分	整備計画策定時に主な事業として整備効果を見込んでいた都市計画道路泉大津駅前通り線の整備が、平成31年度から別の事業へ移行し継続中であり、整備効果がまだ現れていないため。
	最終実績値	14分	